

農林総合技術センターでは、「①食品加工研究室」「②経営技術研究室」を新たに設置し、農畜林各分野の垣根を越えた試験研究を推進しています。

本号では、この「新たな研究室の取り組み状況」の紹介と合わせ、「センター各部（農業技術部・畜産技術部・林業技術部・農業研修部）のトピック」についても紹介します。

①食品加工研究室

農畜林各分野の技術を持ち寄り、穀類・野菜・果実・食肉・魚介類など、県産素材の特徴を活かした加工品の開発に力を入れ、地産・地消の取り組みを支援しています。

②経営技術研究室

関係先と連携し、地域の経営管理技術の調査・研究及び経営改善に向けた支援を行うとともに、農林産物の鳥獣被害に関する相談・情報提供と対策研究に取り組んでいます。

新たに設置された研究室の取り組み紹介（その1）

『簡単・きれいに栗の皮を剥く技術を開発中』

～ 食品加工研究室の研究紹介 ～

本県で栗は、岩国市と美祢市を中心に、全県の中山間地で主要な果樹として生産されています。産地では、青果として出荷できない小さい栗などを、加工へ利用することを検討されていますが、ナイフ等による手剥き作業などに多大な労力がかかるため、一部の加工用途を除き、未利用のまま廃棄されています。

そこで、食品加工研究室では、以前開発した技術（簡単に鬼皮^{はくひ}を剥皮）を基に、栗本来の形状・果肉色を活かすことができる、渋皮の簡単な剥皮技術を開発しました。

これは、ミカンやモモの缶詰加工で使用する食品添加物（アルカリ溶液）を使い、渋皮を軟らかくして、簡単に剥けるようにする技術です。

また、渋皮を剥いた後の栗を自然な黄色に戻す技術も合わせて開発しました。

今後は、本技術の実用化に向け、機械装置の検討や、それに合わせた手法の改良などを行うこととしています。



本技術で渋皮を剥いた栗



従来の方法（手剥き）で渋皮を剥いた栗

<主な内容>

◇新たに設置された研究室の取り組み紹介

『簡単・きれいに栗の皮を剥く技術を開発中』

『開閉不要のゲートでシカの侵入を防ぐ！』

～食品加工研究室～

～経営技術研究室～

◇センター各部のトピック紹介

『病気に強い自然薯の開発に向け、山口大学と連携研究を実施中』

『県産種雄牛（福美美）が全国トップレベルの成績を収める！』

『環境にやさしい木質ペレット・バイオシステムの研究』

『担い手確保に向けた研修強化「やまぐち就農支援塾」』

～農業技術部～

～畜産技術部～

～林業技術部～

～農業研修部～

◇これ知ってる？知的財産権

『種苗法（育成者権）の罰則が引き上げられました』

～企画情報室～

病気に強い自然薯の開発に向け、山口大学と連携研究を実施中

— 植物ウイルスワクチンの開発へ —
～農業技術部（農業試験場）のトピック紹介～

近年、県内で栽培されている自然薯^{じねんじょ}において、葉にモザイク症状が発生し、収量が著しく低下するモザイク病が増加し、問題になっています。

このため、農業技術部資源循環研究室では、山口大学農学部と平成17年から本病の防除対策の確立を目的に連携研究を実施し、平成19年から現地で植物ウイルスワクチンを利用した「病気に強い自然薯」の効果確認をしています。

昨年の結果では、現地慣行に比べモザイク病の発生が少なく、肥大のよいイモが収穫されています。



モザイク病に罹った自然薯の葉



自然薯を収穫する山口大の学生
(写真：中国新聞社提供)



収穫した自然薯
(左：現地慣行 右：ワクチン接種)

ふくみみ

県産種雄牛(福美美)が全国トップレベルの成績を収める！

～畜産技術部（畜産試験場）のトピック紹介～

畜産技術部では、やまぐち和牛の産地づくりを進めるため、「黒毛和種」の産肉性等経済能力の向上を図り、能力の優れた種雄牛の造成やその凍結精液を県内肉用牛農家への供給を行っています。

平成19年10月に、5年に一度の「和牛のオリンピック」と称される「第9回全国和牛能力共進会」が鳥取県で開催され、各県の代表牛が体型や産肉能力で競いました。

本県の種雄牛^{きんし}の産子^{しれつ}は、産地競争が熾烈^{しりつ}を極める中、肥育牛部門の第8区において第2位の成績を収め、本県の種雄牛能力の高さを全国に知らしめ、県内肉用牛農家の大きな期待に応えました。

当部では、産地間競争に打ち勝つ地域特産品のやまぐち和牛の産地づくりのため、肉用牛の改良・研究を積極的に進めていきます。



繋養中の県産種雄牛「福美美号」

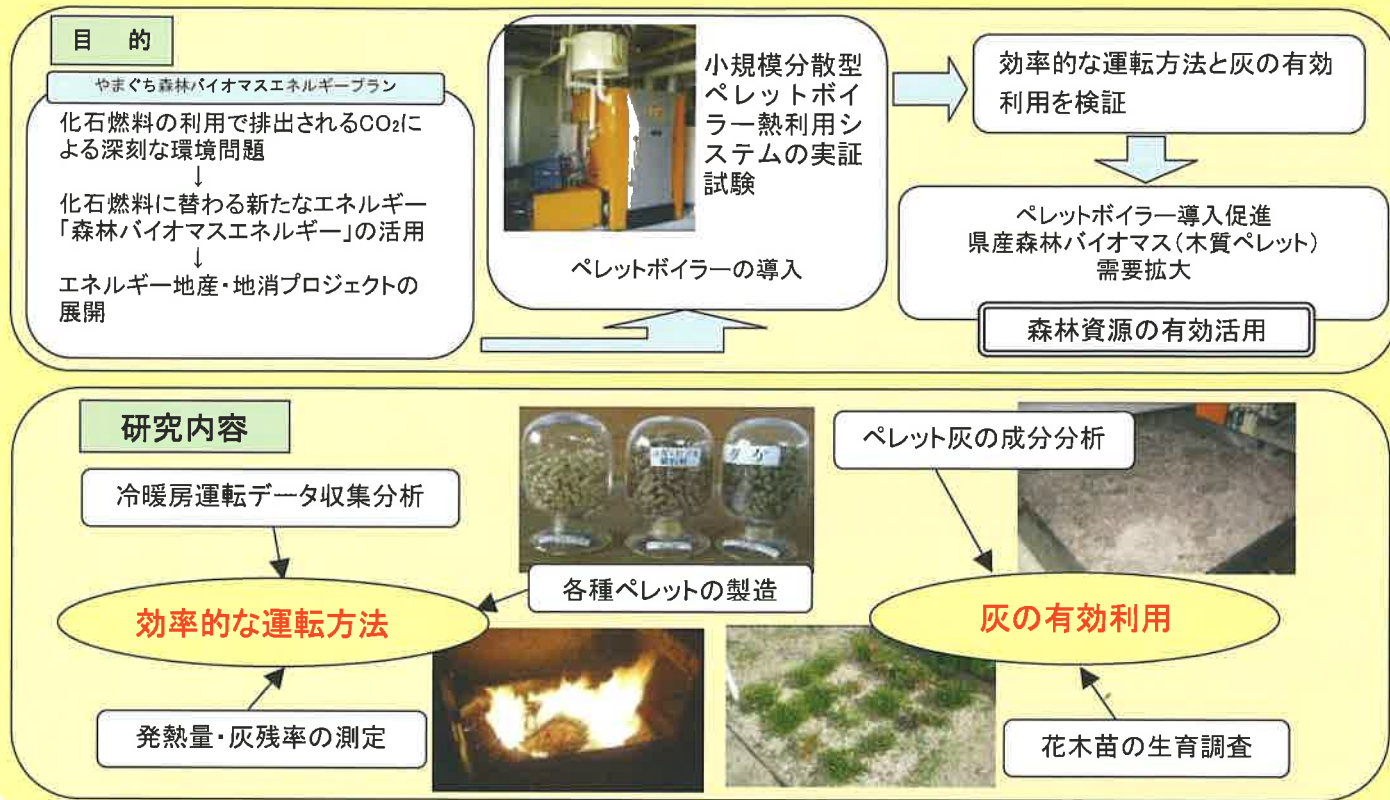


全国和牛能力共進会の審査風景

環境にやさしい「木質ペレットボイラーシステム」の研究

— 森林資源の有効活用を促進 —
～林業技術部（林業指導センター）のトピック紹介～

林業技術部では、森林資源の有効活用やCO₂排出削減に向けた、木質ペレットの利用拡大を図るため、ペレットボイラーの効率的な運転方法や発生する灰の有効利用に関する研究をしています。



担い手確保に向けた研修強化「やまぐち就農支援塾」

～農業研修部（農業大学校）のトピック紹介～

農業研修部では、「やまぐち就農支援塾」を開講しています。この塾は、定年帰農希望者など就農を目指す方々を対象にした、農業の基礎から応用までを習得するための体験型の研修です。

この研修は当初「ホリディ営農塾」の名前で平成14年度に開設し、これまでに延べ300名を越える方が受講され、県内各地で活躍されています。

今年度は様々なニーズに対応できるよう講座を拡充し、4つの講座を設けました。

【平成19年度やまぐち就農支援塾の開講講座】

講座	コース	実施回数
基礎	水稻+畑作物、露地野菜、軽量野菜、花き、果樹	原則休日開催 年間14回程度 (果樹のみ4回)
応用	野菜、花き、肉用牛	原則平日開催 年間24回程度
担い手養成	野菜、花き、果樹、肉用牛	原則平日開催 年間120回程度
集落営農	オペレーター養成	原則休日開催 年回4回程度
	経理一元化担当者養成	原則平日開催 年間2回程度



特に、新たに開設した「担い手養成講座」では、より実践的な研修を年間120日行っており、受講者のうち2名の方が今年から農業の担い手としてそれぞれの地域で本格的にスタートを切られる予定です。

平成20年度も、ベテランの講師陣をそろえ、充実した研修ができるよう準備を進めています。受講を希望される方はお問い合わせください。なお、次年度の塾生の公募は、3月中旬頃から1ヶ月間の予定です。

※やまぐち就農支援塾事務局（農業研修部内）
電話番号：0835-27-0015

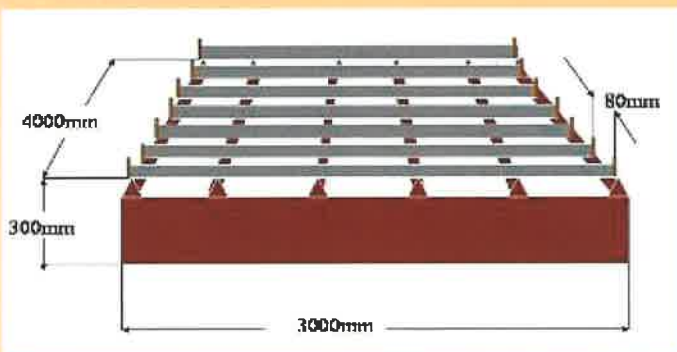
新たに設置された研究室の取り組み紹介（その2）

『開閉不要のゲートでシカの侵入を防ぐ！』 ～経営技術研究室（鳥獣被害研究グループ）の研究紹介～

本県の西部を中心としたシカ生息地では、農林業の被害を防ぐため防護柵を整備しています。しかし、農地と集落を結ぶ「道」は柵でふさぐことができず、通常の開閉ゲートでは開け閉めが大変なことから、費用がかさんでも道に沿って農地全体を柵で囲う所が多くなっています。

このため鳥獣被害研究グループでは、家畜の放牧で利用されていたテキサスゲートをもとに、シカは通れず人間や農業機械は自由に通ることができる日本型テキサスゲートの試作品（写真）を開発しました。現在、現地試験を実施していますが、試作品はシカの侵入を完全にくい止めており、高い侵入防止効果を確認しています。

今後は、耐久性や安全性を検証し、シカの侵入を防げ、道として自由に行き来できるゲートの実用化を目指します。



日本型テキサスゲートの構造図



自動車の走行試験

これ知ってる？知的財産権 ～種苗法（育成者権）の罰則が引き上げられました～

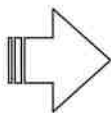
改正のポイント（種苗法の一部改正）

育成者権（育成者が独占的に登録品種を利用できる権利）の侵害行為を抑止するため、罰則が引き上げられました。

どう変わったの？

改正前

懲役 3年以下
又は
罰金 300万円以下
（法人は1億円以下）



改正後

懲役 10年以下
又は／併科
罰金 1000万円以下
（法人は3億円以下）

（H19. 12. 1施行）

どんなことに注意が必要なの？

皆さんが通常利用している登録品種の種苗は、購入先の種苗会社や農協、小売店などがその登録品種の育成者から許可を受けており、そのまま利用する場合は改めて許可を受ける必要はありません。ただし、次のような例は、侵害行為に該当しますので注意してください。

- ①自家増殖※した『登録品種』の種苗を他者に配布したり、そのような種苗を知人からもらい、利用すること（無償でも不可）。※購入した種苗を栽培し、得られた種子や穂木を、そのまま次の種苗に利用すること
- ②他県の育成品種で、その県以外での栽培を禁止している場合（いちご「あまおう」福岡県育成等） など（詳細は、下記の企画情報室までお問い合わせください。）

<山口県農林総合技術センター 企画情報室>

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL (083) 927-7011 FAX (083) 927-3713

URL <http://www.nrs.pref.yamaguchi.lg.jp>（やまぐち農林水産.ねっと）からアクセスできます。

※ 皆さまからの御意見、御要望をお待ちしております。